

韓国における差別語及び自国卑下表現 — その実態と改善方案 —

日時 2023年6月23日（金）13:00～14:30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 高明均（研究員、外国語学部教授）

本講座では、韓国社会に現れる多様な差別語について、その問題点や解決方案を探りながら自国卑下表現も時代別に調べていく。差別（discrimination）は‘他人や集団に関する否定的態度である偏見が行動で具体化されること’を示す。どの国でも日常生活の中で差別語や卑下表現は存在しているが、特に朝鮮語の語彙及び表現力は豊富であるため、その激しさは他の言語より深刻であると思われる。

まず、差別語の概念や定義に関連した既存の研究を検討し、近年の韓国社会における現状や実態を類型別（人種、障がい、ジェンダー、職業など）に分け、その意味・使い方の実例、変遷などを詳しく分析する。例えば、‘食母>家政婦/派出婦>家事도우미(helper)’、‘清掃夫/清掃婦>清掃員>環境美化員’などの職業における差別語が存在するが、適切な言葉に改善された代替語もいまだに辞書には載っていないことは遺憾である。この頃、複雑な社会構造のなかで利害関係の衝突や葛藤が高まり、差別表現が深刻な現状であるにもかかわらず相手に対して攻撃的な態度を見せる。特に、差別語の特徴は、多様な造語力を用いて、SNSによって即時に、広範囲に拡散していくことが挙げられる。また、韓国の自国卑下表現（東夷、hell 朝鮮など）の実態を過去から現在に至るまで探ってみる。自分の国を誇りに思うのではなく卑下する心理的要因或いは社会的な現状は何なのかも分析してみる。

最後に、上記に述べた問題点の解決や改善方案について、政府の政策、言論及び社会、教育機関、個人の領域に分けて調べてみる。各界各層の努力を通して新しい代替語及び表現が生成され、差別語や卑下表現を無くすことにより住みやすく、人情味が溢れる豊かな社会を作ることができるだろう。

* * *

●聴講無料（定員200名/先着順）<事前申込制>

人権問題研究室ホームページ トップページ (<https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>) にある「新着情報」内の本講座案内ページの申込フォームから事前に受講申込をしてください。定員になり次第、受付を終了します。

空席があります場合、事前申込をされていなくても聴講は可能です（当日会場にて参加受付を行います）。

手話通訳が必要な場合は、6月1日（木）までに人権問題研究室へご連絡ください。

第113回 10月27日（金）13:00 『『戦争孤児』を生きる』

第114回 11月24日（金）13:00 「なぜCMにおける女性像をめぐる『炎上』が起きるのか」（仮題）

会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室（予定）



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>